

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 25日		～ 令和8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 25日		～ 令和8年 1月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 6日		～ 令和8年 2月 6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1か所	(回答者数) 1か所
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問支援員以外の職員も訪問支援の内容を把握している。	・事業所内の支援会議などを通して、訪問支援員以外の職員も訪問支援の現在の状況や支援内容について共有・検討している。訪問報告書や面談記録を他の職員も回覧し把握できるようにしている。	・引き続き、他の職員にも訪問支援の状況を報告し、支援方法などを話し合い、知識や支援方法のバリエーションが増えるように努めていく。
2	・訪問先に支援を満足して頂いている。	・訪問先担当者と連絡ノートや電話などでこまめに情報共有している。困り感があれば適時支援を相談したり、児童発達支援の療育場面で練習するようにしている。 ・提案した支援方法が訪問先で無理なくできるか必ず確認している。	・訪問先の困り感を、訪問先の実状や保育観も聞き取りながら支援方法を提案・相談していく。
3	・訪問先の意向が支援計画に盛り込まれている。	・昨年度の評価より今年度から訪問先の意向も支援計画に盛り込むようにした。訪問先にとっても、今困っていることは何か、成長して欲しい事は何か考える機会にもなった。	・モニタリングの時期はもちろん、適時、訪問先の困り感や意向は確認し、利用児や訪問先に寄り添う支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ホームページ等にて活動概要を発信していない。	・活動概要等は訪問先の個人情報保護の観点から、訪問支援を利用していない保護者も見るとお便りやホームページでは掲載しにくい。代わりに、訪問支援を利用している保護者には訪問報告書に活動概要を写真もつけて分かりやすく伝えている。	・訪問支援の活動概要や支援例をお便りで紹介する。
2	・ペアトレなど保護者が参加できる研修会の開催が少ない。	・訪問支援員の知識・経験不足 ・家庭療育支援座談会を今年度は1回開催した。専門機関での研修案内も掲示した。	・児童発達支援と連携し、研修会や交流会の企画をできる範囲で継続していく。 ・島根県東部発達障害者支援センターウィッシュなど専門機関の研修案内を掲示する。
3			